

男女共同参画 三十一年

令和5年度テーマ「守る個性 つくる みんなの未来！」

第2回セミナー「クリスマスコンサート」

12月2日(土) 13:30～15:00

会場：市民プラザかぞ 3階 多目的ホール

出演：マリンバ 篠塚 裕美子 氏 (マリンバ奏者、加須市観光大使)

ピアノ 浅子勝也 氏 (作曲家・編曲家)

パーカッション 本間修治 氏 (パーカッショニスト)

定員：100人

申込：10月16日(月) 受付開始

☎0480-62-1111(内線342)



♪マリンバ・ピアノ・パーカッションの

演奏者3人による、素敵なトリオのコンサートです。♪

男女共同参画社会の実現を目指して、今年度もセミナーを企画しています。セミナーの参加に年齢や性別は問いません。みなさん、ぜひご参加ください。

セミナーの参加申し込み・問合せはこちら

加須市役所 人権・男女共同参画課

☎0480-62-1111(内線342)



「女性人材リスト」にご登録いただける女性を募集しています。

加須市では、審議会等の委員や各種団体・ボランティア団体等に女性の参画を推進するために、「女性人材リスト」を作成しています。

市の施策に興味をお持ちの方など、女性人材リストへ登録してみませんか。

詳細は市のホームページをご覧ください。

第3回セミナー
令和6年1月 開催予定
実りあるセミナーを企画中です。
お楽しみに(^^)♪

準備中!



男女共同参画週間 パネル展

～市民企画委員会 事業部～



展示期間 6月21日(水)～7月5日(水)
場所 市民プラザかぞ 1階 エントランスホール
展示内容 「男女共同参画を推進しよう！」
・男女共同参画とは ・加須市の取り組み
・加須市男女共同参画市民企画委員の活動 など
ご覧いただきました皆様 ありがとうございました

編集後記

「おはようございます!」「行って来ます(^^)」
「今日もファイト!」「ありがとうございます。」
どこの誰かも知らない中学生とのやりとりです。
朝の散歩を始めてもう10年、運動嫌いな私に続けられることと始めた日課です。
見慣れた景色もちょっとしたあいさつで、心が温かくなります。今日は、誰に逢うかなあと楽しみながらの散歩です。

心を寄せあい、あたたかな社会をみんなで作れたら良いなあと思います。

『さあ、今日もファイト!』

～市民企画委員会 広報部～



加須市男女共同参画情報紙

Vol. 26

2023.9.1

ばれっと



もくじ

男女共同参画週間記念講演会

「DVのない社会に
～身近にあるモラルハラスメント～」…2

手と手

「命を歌にかけて『一生懸命』」…3

男女共同参画セミナーのお知らせ…4

男女共同参画パネル展のようす 他

表紙イラスト：中島 君子さん
(加須地域在住)

「ばれっと」は、男女にかかわりなく、たくさんの方がパレットの上で絵の具を混ぜ合わせるように、自分たちの暮らしを豊かに色づけできたらと、そんな願いを込めました。

□発行日/令和5年9月1日(年2回発行) □編集/加須市男女共同参画市民企画委員会 広報部
□発行/加須市総務部人権・男女共同参画課 □TEL0480-62-1111(内線342) E-mail jinken@city.kazo.lg.jp

男女共同参画週間記念講演会 ～DVのない社会に～ 身近にあるモラルハラスメント

令和5年7月7日（金）
パストラルかぞ 小ホール



講師 NPO 法人レジリエンス代表 西山 さつき 氏

《講師プロフィール》
各地でDV・トラウマからの回復について多数講演を行っているほか、中学・高校に出向いての「デートDV」予防啓発や、予防啓発を行う支援要請を行っている。
また、DV・トラウマからの回復のための「こころのcare講座」を全国に広めるためのファシリテーター養成講座なども実施している。

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは

親密な関係性（夫婦・恋人・内縁・同性カップル・不倫など）で発生し、一方から一方に繰り返し行われる暴力。

4人にひとりの女性が配偶者からの暴力を経験（2020年内閣府）。

外面の良い加害者からの偽りの優しさと暴力の連鎖から被害者が孤立し、支配されていく。



暴力の種類

- ・身体的暴力
- ・性暴力
- ・経済的暴力
- ・精神的暴力
- ・デジタル暴力
- ・ストーカー行為

DVと夫婦喧嘩の違い

配偶者暴力防止法ができたのはわずか20年前。

DVと夫婦喧嘩との違いは

- ・加害者の破壊力の大きさ
- ・被害者の感じる恐怖心

問題解決の手段に
暴力を使ってはいけない

良い関係性に必要な要素

- ・平等である。
- ・尊重しあっている。
- ・安全感、安心感がある。



DVが及ぼす子どもへの影響

- ・DVの目撃は児童虐待。
- ・健全な関係性を学べない。
- ・安定した養育環境が維持できず、子どもに様々な影響が出る可能性がある。
- ・身体的虐待・性的虐待を受ける可能性が高くなる。

子どもへの虐待の発生率は
DV家庭のほうが他の家庭に比べて
性虐待は4～6倍。
身体的虐待は7倍高い。

参加者の意見

- ・講師の方の実体験を織り交ぜた内容で、とても参考になりました。
- ・DVについて真剣に考えるきっかけとなり、有意義な講演でした。
- ・寄り添ってくれる人がいるだけで、先が見えるようだと感じました。

1%の希望を積み上げるために 私たちにできること

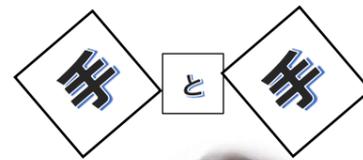
悩んでいる人に出会ったら・・・

- ・話を聞いてあげる。「今まで一番つらかったことは？」
「一番怖かったことは？」
- ・相談施設・保護施設につなげる。
- ・温かい言葉をかけ続ける。「あなたはいい人ね」「あなたは必要な人よ」
- ・温かいまなざしを向け続ける。良い点をほめてあげる。
- ・元気はあるか、笑顔はあるか、服装はあっているか。
- ・PTSD(心的外傷後ストレス障害)を受けた人も温かい支援の下でPTG(心的外傷後成長)することができる。

講演を聞いて

相手の立場になって考えながら、人の心の痛みを知るよう努力していきたいと思いました。

「支配があるかのチェックリスト」は、NPO 法人レジリエンス ホームページ：www.resilience.jp



命を歌にかけて『一生懸命』



～声の出るかぎり 歌っていきいたい～

6月21日（水）市民プラザかぞ女性センター談話室に 加須市観光大使の 小久保 琴 さん をお招きして、お話を伺いました。小久保さんは、北川辺在住で、平日は会社員としてフルタイムで働きながら、週末は演歌歌手として活動しています。

夢をかなえる

幼いころから歌うことが好きで、大会で賞を取ったり、のど自慢に出場したり、スカウトされたりましたが、デビューには至らず、結婚を機にあきらめた。

子どもを育て上げ、自分の時間ができたときに「ボランティアとして老人ホームなどで歌いたい」と思い、教室に通って歌を学びなおした。

- ・2018年鈴木邦彦カラオケ大会で最優秀歌唱賞を受賞。
- ・2021年4月にCDデビュー
- ・2023年5月加須市観光大使に就任

元気のみなもとは

- ・一生懸命仕事をする事で「ありがとう」と仕事仲間に声をかけてもらえる。
- ・歌を歌うと「元気をもらったよ」「よかったよ」と言ってもらえる。
- ・家族の応援
- ・会社の応援

「年を取る」というのは
「年が引かれて
若くなること」

みんなにエールを送る

- ・好きなことだから頑張れる。
- ・交友関係が広がっていく。
- ・歌っていることが幸せ。
- ・一生懸命生きてきたので、同世代に元気を分けてあげたい。

生きがい

- ・一生懸命仕事して、会社で多くの人に頼りにされていること。
- ・歌を歌ってたくさんの人に元気を届けること。

「一生懸命」という
言葉が大好き

自分も元気を
もらっている

主な歌手活動

- ・ホテルのディナーショー
- ・ホールでのコンサート
- ・イベントでの歌唱

これから

- ・コロナが落ち着いたら、老人ホームで歌いたい。
- ・自宅を開放して歌の教室を開きたい。
- ・常にみんなに頼られる人でありたい。
- ・声が出る限り歌い続けたい。

取材を終えて

さわやか・パワフル・元気・明るい・前向き・若い。「悪いことは口に出さない」「なんだってやる気になればできる」まったく年齢を感じさせない、内からにじみ出る若さ、生きる力をもらい、私もがんばろうという気にさせてくれる。人を思いやることの大切さも改めて感じられた。コンサートを聴きにいかなくちゃ。ずっとずっと歌い続けてください。